

各 位

共同コンピュ - タホ - ルディングス株式会社

代表取締役社長
吉 村 昭 一

(JASDAQ コド番号9685)

問い合わせ先
専務取締役
相 原 能 文

TEL 03-3254-5491

平成18年3月期通期(連結・単独)業績予想の修正に関するお知らせ

平成18年3月期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)の業績予想について、平成17年11月29日付当社「平成18年3月期 中間決算短信(連結)」及び同日付当社「平成18年3月期 個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成18年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 通期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	3,900	260	210
今 回 修 正 (B)	3,900	260	410
増 減 額 (B - A)	0	0	200
増 減 率	- %	- %	95.2%

(2) 修正理由

当期純利益について、この度以下の修正を行ったためその影響額により当期純利益の予想を修正いたします。なお、本件の修正内容の詳細については、本日発表の「(訂正)平成18年3月期中間決算短信(連結・単独)の一部訂正について」をご参照ください。

6

(中間期の修正)

従来より税効果会計を適用しておりますが、繰延税金資産については過去の業績及び将来の予測等を勘案して回収可能性を厳格に判断し、会計上の保守的な観点より全額評価性引当金を計上して、繰延税金資産を計上しておりませんでした。しかし、ここ1～2年業績もほぼ計画通りに達成し徐々に業績も安定してきたこと、また、将来の業績予測も実現可能性が高まったことなどにより、当中間連結会計期間より、回収可能性の高い一部の将来減算一時差異について、評価性引当金の取崩を行い、繰延税金資産を計上致しました。

(次葉へ)

その時の会計処理において、「税効果会計適用の経過措置」に準拠して過年度の損益の影響額を「過年度税効果調整額」として、当中間期の影響額とは区分して、前期繰越利益(損失)に加減する方法で当中間純利益に影響させておりませんでした。

但し、連結財務諸表及び個別財務諸表とも税効果会計関連の「追加情報」の中で、当該影響額の詳細を記載しております。

然しながら、「税効果会計に係る経過措置」の適用は、税効果会計の適用の初年度(平成11年4月1日以降開始する事業年度及び連結会計年度)のみしか行えなかったため、それを修正して過年度の影響額を「過年度税効果調整額」より「法人税等調整額」に含め中間純利益利益に影響させたものであります。

なお、この修正により中間連結財務諸表の株主資本(利益剰余金中間期末残高)及び個別中間財務諸表の株主資本(利益剰余金中間期末残高)には影響はございません。

2. 平成18年3月期 単独業績予想の修正等

(1) 通期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	120	5	100
今回修正 (B)	120	5	250
増減額 (B - A)	0	0	150
増減率	- %	- %	150.0%

(2) 修正理由

連結業績予想の修正理由と同様であります。

以 上